

講義科目	: 法学基礎演習	単位数	: 2
担当	: 川上 哲	学習形態	: 選択科目

講義の内容・方法および到達目標

この演習では、政治学や行政学の立場から日本の政治や行政の諸問題を扱っていく。具体的には現代日本の政治や行政、社会に関わる文献輪読を通じて活発な討論を行い、2年次の演習に向けた基礎的な素養を学んでいく。

日本の政治や行政に関心がある学生に受講することを勧める。一人一回以上は必ず報告する機会を設けるので、自らの報告を分かりやすく伝えるための訓練の場として積極的に活用してほしい。また適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることも学んで欲しい。

授業計画

- 第1回 ガイダンス①本演習の説明と自己紹介
- 第2回 ガイダンス②文献や資料の探し方について
- 第3回 『中流崩壊』―「第1章 「総中流」の思想」の輪読
- 第4回 『中流崩壊』―「第2章 理想としての「中流」」の輪読
- 第5回 『中流崩壊』―「第3章 「総中流」の崩壊」の輪読
- 第6回 『中流崩壊』―「第4章 実態としての「中流」」の輪読
- 第7回 『中流崩壊』―「第5章 主体としての「中流」」の輪読
- 第8回 『戦後政治史』―「敗戦と占領改革」部分の輪読
- 第9回 『戦後政治史』―「55年体制」部分の輪読
- 第10回 『戦後政治史』―「高度成長と自民党政治」部分の輪読
- 第11回 『戦後政治史』―「政治改革と90年代政治」部分の輪読
- 第12回 『戦後政治史』―「構造改革と00年代政治」部分の輪読
- 第13回 『官製ワーキングプアの女性たち』―「婦人相談員の現状」などの輪読
- 第14回 『官製ワーキングプアの女性たち』―「女性非正規問題」などの輪読
- 第15回 『官製ワーキングプアの女性たち』―「公共図書館司書」などの輪読

教材・テキスト・参考文献等

以下の3つの文献を読んでいくので購入すること。

- 橋本健二『中流崩壊』（朝日新書、2020年）
- 石川真澄・山口二郎『戦後政治史（第三版）』（岩波新書、2010年）
- 竹信三恵子他編『官製ワーキングプアの女性たち』（岩波ブックレット、2020年）

成績評価方法

評価は出席（50％）と報告・発言（50％）で評価する。本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加を求める。

その他

行政学を履修済みであることが望ましい。未履修者には本年度後期に行政学（夜間）あるいは地方政治論を履修することを求める。